

本 会 会 報

学会だより

◇ 会員の榮譽

本会名誉会員佐々木卓治氏（東京農業大学）は、令和元年度の文化功労者として顕彰されました。

◇ 令和元年度 第2回運営委員会議事録

日時：2019年8月3日（土）14:00～17:30

場所：中西印刷本社会議室

出席：奥本裕，大澤良，村井耕二，寺石政義，佐々英徳，井澤毅，有村慎一，石川隆二，山田哲也（北大），畠山勝徳，吉岡洋輔，中園幹生，横井修司，加藤鎌司，久保貴彦，久保山勉，山本敏央，加賀秋人，吉田均，佐藤和弘，風間智彦，築山拓司【出席：22名】

欠席：なし

各運営委員からの活動経過報告の後、以下の事項について審議された。

1. 英語版ホームページの充実について
2. Q&A ページの作成について
3. 学会ウェブサイトの関連リンクの整理について
4. 記者発表情報公開日の設定について
5. 運営委員通信費の取扱について
6. EUCARPIA Membership について
7. 編集委員の新任について
8. 代議員会の議題について

◇ 第8回代議員会議事録

日時：2019年9月5日（木）15:00～17:00

場所：近畿大学奈良キャンパス 農学部教室棟（理事・運営委員・その他）

出席者：奥本裕，大澤良，村井耕二，佐々英徳，有村慎一，石川隆二，山田哲也（北大），山本敏央，築山拓司，風間智彦，加賀秋人【11名】

欠席者：吉岡洋輔，吉田均，経塚淳子，富田因則【4名】（代議員）

出席：阿部純，高牟禮逸朗，加藤清明，久保友彦，岡崎桂一，高橋秀和，笹沼恒男，石本政男，久保山勉，田中淳一，矢野昌裕，田中剛，米丸淳一，新倉聡，房相佑，井澤毅，伊藤純一，岩田洋佳，矢野健太郎，岩崎行玄，佐藤豊（遺伝研），土井一行，中園幹生，横井修司，三浦孝太郎，山根京子，加藤鎌司，辻本壽，佐藤和広，久保貴彦，寺石政義【31名】

欠席（議決権行使）：畠山勝徳，江面浩，平野博之，宮原克典【4名】

欠席：赤田辰治，中村郁郎，石井尊生，宅見薫雄，田浦悟【5名】

議長：代表理事（奥本会長）

議事録：運営委員（庶務担当 総務第二）

出席者数は代議員会の定足数（20）を満たしていた。

1. 報告事項

（ア）運営委員会報告（各運営委員）

総務：会員数の推移・学会誌発行部数・HP更新・メール配信数・契約

HP：英語版サイトの充実の検討

科研費：BS・シンポ科研費

農学会：農学会シンポジウム等

地域：各地域の活動報告

会計：中間決算報告

編集 英文誌：編集状況，和文誌：編集状況

集会：今大会開催予定・次大会開催予定

2019年秋季大会（第136回講演会・第61回シンポジウム）

開催地：近畿大 大会運営委員長：種坂英次氏

日程：9月5日（木）代議員会

9月6日（金）一般講演，シンポジウム・ワークショップ，懇親会

9月7日（土）一般講演

9月8日（日）市民公開シンポジウム「品種育成をより迅速にーゲノム情報に基づく作物育種の今と未来ー」

2020年春季大会（第137回講演会・第70回総会）

開催地：東京大 大会運営委員長：井澤毅氏

日程：3月27日（金）代議員会

3月28日（土）一般講演，総会，受賞講演，懇親会

3月29日（日）一般講演，グループ研究会

2. 審議事項

（ア）通常決議議案：令和元年度日本育種学会賞の選考について

学会賞等選考委員長より以下の3課題の日本育種学会賞候補の推薦理由について説明があった。

(1) 穴井豊昭（佐賀大学農学部）「ダイズ突然変異体リソースの整備と新規アレルの開発に関する研究」

(2) 井澤毅（東京大学大学院農学生命科学研究科）「イネの光周性花芽形成の分子メカニズムの解明」

(3) タキイ種苗株式会社トマト育種チーム（代表者：加屋隆士）「日持ち性を有し完熟出荷を可能にした高品質・良食味大玉系トマト「桃太郎シリーズ」の育種」

投票の結果，代議員出席者の3分の2以上の賛成票を

得て3件とも承認された。

(イ) 通常決議議案：令和元年度日本育種学会奨励賞の選考について

学会賞等選考委員長より以下の3課題の日本育種学会奨励賞候補の推薦理由について説明があった。

(1) 山口直矢（北海道立総合研究機構 十勝農業試験場）「ダイズ安定生産に資する耐冷性と耐倒伏性の遺伝育種学的研究および品種育成への応用」

(2) 加藤信（農林水産省 大臣官房政策課技術政策室）「ダイズの生産性向上のための伸育型制御に関する育種学的研究」

(3) 大木信彦（農研機構・九州沖縄農業研究センター）「非選好性に着目したダイズハスモンヨトウ抵抗性に関する遺伝育種学的研究」

投票の結果、代議員出席者の3分の2以上の賛成票を得て3件とも承認された。

(ウ) 編集委員の新任について

Ill-Sup Nou 氏の新任が承認された。

3. その他

(ア) 関連報告

シンポジウム委員会、男女共同参画推進委員会、記者発表、JABEE 公益財団法人農学会技術者教育推進委員会より報告があった。

(イ) 運営委員（総務）より、講演会の優秀発表賞の投票について説明があった。

◇ 第136回講演会選定課題記者発表報告

発表日時：令和元年9月3日（火曜）14:00～15:00

発表場所：東京大学弥生講堂アネックス・エンゼル研究棟講義室

出席者：村井耕二，有村慎一

参加機関：科学新聞社，日本農業新聞，化学工業日報

詳細資料希望：日経BP社

発表タイトル：

(1) トマトの新規単為結果性変異体の選抜と原因遺伝子同定

(2) 重イオンビーム照射による夏秋小ギク品種「長崎SWC1」の育成

講演タイトル：

(1) P008 トマトの新規単為結果性変異体の選抜と原因遺伝子同定

有泉亨，陸宇，篠崎良仁，白澤健太，江面健太郎，岡部佳弘，江面浩（筑波大学ほか）

(2) 312 重イオンビーム照射による夏秋小ギク品種「長崎SWC1」の育成

久村麻子，諸岡淳司，阿部知子，林依子，平野智也（長崎県農林技術開発センターほか）

◇ 第136回講演会日本育種学会優秀発表賞報告

講演番号 P039：2つの遺伝子がイネの穂型を制御する

☆縣步美¹，保浦徳昇²，安藤考紀¹，太田自由¹，小嶋美紀子³，竹林裕美子³，竹原清日²，土井一行¹，上口（田中）美弥子²，鈴木孝征⁴，榊原均^{1,3}，松岡信²，芦荻基行²，犬飼義明⁵，北野英己²（1. 名大院生命農学，2. 名大生物機能開発利用研究センター，3. 理化学研究所，4. 中部大院応用生物学，5. 名大農国センター）

講演番号 508：イネ種間雑種胚乳におけるインプリントーム解析

☆殿崎薫^{1,5}，川勝泰二²，小野明美¹，古海弘康³，野々村賢一⁴，Comai Luca⁵，木下哲¹（1. 横浜市大・木原生研，2. 農研機構・生物機能利用，3. 遺伝研・植物遺伝，4. 遺伝研・植物細胞遺伝，5. UC Davis）

講演番号 209：北海道イネ系統を用いた穂揃い性とその環境応答性の遺伝的解析

☆坂口俊太郎，太田雄也，内山堯，小出陽平，高牟礼逸朗，貴島祐治（北海道大・院農）

講演番号 P084：リンドウの効率的な染色体倍加方法の開発

☆高村祐太郎^{1,2}，高橋亮²，日影孝志²，畠山勝徳¹，高畑義人¹（1. 岩手大学農学部，2. 八幡平市花き研究開発センター）

講演番号 302：深層学習を用いた麦類の穂検出と計数手法の提案

☆郭威¹，石川吾郎²，常松浩史²，柳澤貴司²，藤田雅也²，山田哲也²，米丸淳一²（1. 東大・院農学生命科学，2. 農研機構・作物開発センター）

講演番号 111：GRAS-Diによるタルホコムギ組換え自殖系統群の超高密度連鎖地図の作製

☆三木祐香¹，榎宏征²，鈴木一代²，稲森稔²，吉田健太郎¹，宅見薫雄¹（1. 神戸大・院農，2. トヨタ自動車）

講演番号 414：耐湿性の重要形質である酸素漏出バリアを恒常的に形成する野生イネの探索

☆江尻真斗，塩野克宏（福井県大・院生物資源学）

講演番号 505：二粒系コムギに *Aegilops cylindrica* の花粉を交雑してできる無胚種子のRNA-seq解析

☆高松松美¹，吉田健太郎¹，佐藤和広²，池田達哉³，宅見薫雄¹（1. 神戸大・院農，2. 岡山大・植物研，3. 農研機構・西日本農研）

講演番号 P018：イネの澱粉合成酵素の多重変異体を用いた遺伝的相互作用

☆永松大輝¹，飯島健²，朱紅加²，山本敏央^{1,2}，川越靖²，藤田直子³，堀清純^{1,2}（1. 東大・新領域創成科学，2. 農研機構，3. 秋田県立大・生物資源）

講演番号 P065：一番茶新芽における主要化学成分の系統間差異

☆内田知希¹，山下寛人^{1,2}，片井秀幸³，森田昭雄¹，一

家崇志¹ (1. 静岡大学・大学院農学専攻, 2. 岐阜大学・大学院連合農学研究所, 3. 静岡県農林技術研究所・茶業研究センター)

講演番号 P074 : 1 細胞 RNA-seq 解析に向けたオオムギ幼穂からの 1 細胞単離系の確立

☆佐藤奈緒, 井藤純, 野村有子, 武田紀子, 辻寛之 (横浜市大・木原生物学研究所)

◇ 地域談話会だより

〈北陸地域〉

北陸作物・育種学会第 56 回講演会・シンポジウムが 2019 年 7 月 19 日 (金) ~ 20 日 (土) に福井市のアオッサで開催された。1 日目には公開講演会及び北陸作物・育種学会賞受賞者講演が行われ, 2 日目には一般公演 29 課題の発表に続きシンポジウム開催し 3 名の演者から講演いただいた。発表課題は以下のとおりである。

(1) 公開講演会

「外来雑草が農地で悪者にならないために, 私たちにできること」

1. 基調講演 下野嘉子 (京都大学農学研究所)
2. 事例報告 福井県内事例 2 件

(2) 北陸作物・育種学会賞

「水稲「コシヒカリ」の安定生産及び高品質良食味栽培技術の開発に関する功績」(功労賞) 川口祐男 (富山県農林水産総合技術センター農業研究所)

(3) 一般公演

1. 水稲新品種「てんたかく 81」の育成. 山口琢也¹・表野元保²・伊山幸秀³・村岡裕一¹・木谷吉則⁴・尾崎秀宣¹・藤田健司⁵・池田博一⁴・村田和優¹・森川真紀子⁶・宝田研⁷・向野尚幸⁷・前田寛明⁸・蛭谷武志¹ (1) 富山県農林水産総合技術センター, 2) 県農業技術課, 3) 高岡農林振興センター, 4) 砺波農林振興センター, 5) 県農産食品課, 6) 県農林水産企画課, 7) 富山農林振興センター, 8) 農林水産省)

2. 水稲極早生新品種「葉みみのり」の育成. 重山博信¹・橋本憲明¹・松井崇晃¹・板谷越重人¹・石橋俊明¹・小林和幸¹・阿部聖一²・石崎和彦³・平尾賢一⁴・金田智⁵・名畑越夫⁶・神戸崇⁷・奈良悦子⁶・星豊一⁸ (1) 新潟県農業総合研究所作物研究センター, 2) 新潟県農業総合研究所, 3) 新潟県農林水産部経営普及課, 4) 新潟県農業総合研究所畜産研究センター, 5) 新潟県農業大学校, 6) 新潟地域振興局, 7) 長岡地域振興局, 8) 元新潟県農業総合研究所)

3. 水稲新品種「にじのきらめき」について. 長岡一朗¹・笹原英樹²・松下景³・前田英郎³・重宗明子²・山口誠之³・後藤明俊³・三浦清之⁴ (1) 農研機構中央研, 2) 農研機構西農研, 3) 農研機構作物研, 4) 元農研機構)

4. 可変施肥量の減肥効果とイネ生育収量への影響. 井上健一¹・小寺辰夫²・中村真也³ (1) 元福井農試, 2) 元

キセキ北陸, 3) 福井県庁)

5. 携帯型 NDVI 測定機を用いた幼穂形成期の水稲生育診断. 金森大智・板谷恭兵・吉野真弘・鍋島学 (富山県農林水産総合技術センター)

6. 不耕起 V 溝直播栽培における水稲「てんこもり」の高品質安定生産のための目標籾数. 南山恵¹・野村幹雄² (1) 富山県農林水産総合技術センター, 2) 富山県農業技術課)

7. 山田錦の北陸地域での安定栽培を目指した突然変異育種. 三浦孝太郎¹・山口航平¹・茶谷弦輝¹・高城啓一² (1) 福井県立大学生物資源学部, 2) 若狭湾エネルギー研究センター)

8. 高標高地域で生産された「山恵錦」の品質加工・麴製造適性. 細井淳¹・豊田敦至²・水野正浩³・岩下和裕⁴・岩野君夫⁵ (1) 長野農試, 2) 長野工技セ, 3) 信州大工学部, 4) 酒類総合研, 5) 元秋田県立大)

9. コシヒカリの移植時期と生育・品質・収量-福井農試気象対策試験 10 年間の成績から-. 土田政憲¹・笈田豊彦² (1) 福井農試, 2) 元福井農試)

10. 小麦の収量を高める越冬前施肥体系. 藤田与一・樋口泰浩・川上修・南雲芳文 (新潟農総研作物研究センター)

11. 長野県における小麦「シラネコムギ」の幼穂長による出穂期予測. 井ノ口明義¹・田淵秀樹²・丸山翔太²・平出有道³・土屋学⁴ (1) 長野県農政部農業技術課, 2) 長野県農業試験場, 3) 上伊那農業改良普及センター, 4) 松本農業改良普及センター)

12. 準高冷地において選抜・育成した極早生ライムギの特性. 畑亮太郎¹・野田泰良¹・太田岳士¹・樋川瑠美¹・平嶋千尋¹・鈴木香奈子²・春日重光¹ (1) 信州大学農学部栽培学研究室, 2) 信州大学農学部高冷地生物生産管理学研究室)

13. 大麦の SSIIIa 変異およびもち性変異が β -グルカン含量に与える影響. 青木秀之・関昌子・中田克・長嶺敬 (中央農業研究センター・作物開発研究領域)

14. 後期重点追肥が大麦品種「はねうまもち」の収量, 品質に及ぼす影響. 島崎由美・関昌子 (農研機構・中央農業研究センター)

15. はねうまもちの収量および子実 β -グルカン含量の高位安定化に関する研究 1) 後期重点型肥培管理の影響. 高橋正樹 (福井県農業試験場)

16. もち性皮麦「ホワイトファイバー」の止葉展開期追肥量が生育, 品質に及ぼす影響について. 上原泰・奥出聡美・丸山翔太・青木政晴・酒井長雄 (長野県農業試験場)

17. 密播苗育苗における播種後苗箱の貯蔵技術 (第 3 報) ~無被覆による苗箱貯蔵について~. 齋藤祐幸 ((株) クボタ, 元新潟農総研)

18. 農業用ドローンによる新たな湛水直播栽培技術の確立 (第 1 報) ドローン用播種ユニット (試作機) による

播種が苗立ちに与える影響. 宇野史生¹⁾・永島秀樹¹⁾・ソントンシラ²⁾・須藤悟²⁾・齋藤弘晃²⁾・石井光²⁾・鈴木健一²⁾・休坂健志²⁾ (1) 石川県農林総合研究センター, 2) 株式会社オプティム)

19. 農業用ドローンによる新たな湛水直播栽培技術の確立(第2報)種子予措・保管が種子重量や発芽率に及ぼす影響と播種衝撃の評価. 宇野史生¹⁾・ソントンシラ²⁾ (1) 石川県農林総合研究センター, 2) 株式会社オプティム)

20. 写真測量技術を利用したキャベツ個体サイズの推定. 岸直人・渡邊修・関沼幹夫(信州大学農学部)

21. ICTブルドーザによるほ場の傾斜均平施工技術の評価. 中田敏朗¹⁾・永島秀樹¹⁾・中村徳孝¹⁾・竹原宣博²⁾・吉田敏之²⁾・中村和人²⁾ (1) 石川県農林総合研究センター, 2) コマツ粟津工場)

22. 湿害回避を目的とした小畦立て播種のオオムギへの応用と収量の変化. 高橋正樹(福井県農業試験場作物グループ)

23. 遺伝子発現マーカーによるイネの白未熟粒発生予測技術の開発. 白矢武士¹⁾・太田沙由理¹⁾・三ツ井敏明^{2,3)}・土田徹⁴⁾ (1) 新潟農総研, 2) 新潟大院・自然科学, 3) 新潟大農・応生科, 4) 新潟農総研・作物研)

24. ベンタゾン抵抗性大豆系統の選抜法. 河野雄飛(中央農業研究センター作物開発研究領域)

25. 高冷地におけるベニバナインゲンの主茎切断処理が収量へ及ぼす影響. 関沼幹夫(信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター)

26. 長野県の砂壌土地域におけるダイズ圃場の土壌水分経過の実態. 青木政晴¹⁾・上原敬義¹⁾・岡本潔²⁾・丸山秀幸²⁾・山下亨¹⁾・萬田等¹⁾・阿曾和基¹⁾ (1) 長野農試, 2) 長野野花試)

27. ダイズ黒根腐病発病抑制微生物資材がエダマメ栽培に及ぼす影響の解析. 川上修¹⁾・藤田与一¹⁾・樋口泰浩¹⁾・南雲芳文¹⁾・黒田智久²⁾・佐藤孝³⁾ (1) 新潟農総研作物研究センター, 2) 新潟農総研園芸研究センター, 3) 秋田県立大学)

28. 絶滅危惧Ⅰ類植物アゼオトギリと共生する水田畦畔と用水路の管理方法. 吉岡俊人・日下部智香・水口亜樹(福井県大・生物資源)

29. 福井県における帰化アサガオ類の越冬後種子の死滅率. 鈴木雄登・吉岡俊人・水口亜樹(福井県立大学)

(4) シンポジウム

「地域伝統作物や新品種の価値や権利をどのように守るのかー農業知的財産保護戦略の制度と事例ー」

1. 「農林水産分野における多様な知的財産の役割と課題」 尾崎道(農林水産省知的財産課)

2. 「鯖江市の伝統野菜「吉川ナス」の歴史」 葛野泰央(鯖江市農林政策課)

3. 「新品種保護に係る地域事例 新潟県 新之助の取り組み」 皆川律子(新潟県農林水産部)

研究助成公募等の案内

◇ 公益財団法人タカノ農芸化学研究助成財団 2020年度研究助成公募のお知らせ

2020年度研究助成対象者募集要領

本財団は、農学、特に農芸化学(生物資源等)に関する学術研究を助成し、もって学術研究の発展に寄与することを目的とし設立されました。本年度も、農芸化学等に関する研究を行っている大学等の研究機関の研究者に対し、研究助成金を交付いたします。特に、若手研究者への助成の枠を設け、今後の当該分野の研究促進に役立ちたいと考えています。2020年度助成対象者は次の要領で募集いたします。

1. 研究分野：(A) 豆類や穀類の生産技術(栽培、育種、植物栄養、根圏微生物等)に関する研究 (B) 豆類や穀類、並びにそれらの加工品の食品機能(栄養機能、嗜好機能、生体調節機能等)に関する研究 (C) 豆類や穀類の加工、保蔵、流通技術に関する研究、並びにそれらの発酵に関連する微生物や酵素の探索、特性、利用に関する研究

2. 研究助成対象者：(1) 国内の大学、短大の研究者(大学院生も含む) (2) 国公立並びに国立研究開発法人等の研究機関の研究者 (3) その他本財団の理事会において適当と認められた研究者

3. 助成金額：(1) 一般部門(年齢制限なし) 1件当たり 100万円を7件程度 (2) 若手部門(40歳未満) 1件当たり 50万円を6件程度 ※若手部門は、1980年(昭和55年)4月1日以降生まれの方

4. 交付時期：2020年5月予定

5. 申請手続き方法：財団所定の申請書に必要事項を記入の上、2020年1月15日から3月10日(必着)までに財団理事長宛てに郵送して下さい。尚、申請書用紙は、タカノフーズ(株)ホームページ <http://www.takanofoods.co.jp/> 内【タカノ財団】からダウンロードできます。または、E-mailにお問合せいただけましたら、書類を添付して返信いたします。

6. 申請書請求先及び送付先：〒311-3411 茨城県小美玉市野田1542 TEL: 0299-58-4363 FAX: 0299-58-3847 (公財)タカノ農芸化学研究助成財団 E-mail: tazaidan@takanofoods.co.jp

7. その他：同一研究課題で、他の団体等へ応募され、かつ、本年度重複助成となられた場合には、助成をできない場合がありますのでご注意ください。

過去助成研究テーマ検索 (<http://www.takanofoods.co.jp/company/foundation/>) タカノフーズ(株)HP内

日本育種学会会員異動(2019.4.21～2019.10.20)

◇普通会員入会：齋藤陽子（北海道），鳥羽太陽（宮城県），松本直（秋田県），近藤勝彦，西田帆那，松井匠，吉野花奈美（茨城県），小笠原慧（栃木県），時園佳朗（群馬県），野間聡（埼玉県），神戸敏成（滋賀県），杉本琢真（兵庫県），梶川昌孝（和歌山県），杉山万里（島根県），門田日陽里（福岡県），久村麻子（長崎県），末松恵祐，橋口拓勇（宮崎県）

◇学生会員入会：伊藤栞奈，鹿俣陽平，楠本祥平，坂口俊太郎，張静語，林優季乃，原涼子，平田万季，細川優介，松井克憲（北海道），杉原優（岩手県），赤沼岳，大向詩穂，岡本拓実，小川萌菜，助友千尋，藤田悠生（宮城県），永松大輝（千葉県），綾部弘基，大森涼葉，松谷太郎，武藤直氣（東京都），久下修平，国定愛美，佐藤奈緒，丸岡博（神奈川県），大崎香歩理，鈴木一平，野口明日香，渡辺真結（新潟県），伊藤菜月（長野県），内田知希（静岡県），渥美紗綾，石井陽大，中村春貴，馬場唯菜（愛知県），中元海里，馬場裕士，平尾友識，松本鉄生（京都府），古村翔也，松尾康大（兵庫県），ELHADI GAMILA MOHAMED IDRIS（鳥取県），軒原香乃子，増田佳苗（岡山県），阿久根清羅，田畑

周作，藤原渉，NASUTION KHAIRUL YUSUF, RAHMA SITI NUR AZIZAH FAUZIYATI（福岡県），三木遼太，JIAMTAE PAKANAN（宮崎県）

◇外国会員入会：劉凡渝（台湾）

住所変更等

◇普通会員：安東郁男，原尚資（北海道），石井卓朗，本城（北本）尚子（秋田県），高橋秀和（福島県），芦田（吉田）かなえ，鐘ヶ江弘美，黒羽剛，吹野伸子，山谷浩史（茨城県），三上雅史（栃木県），佐藤宏之，前田寛明（東京都），中川（菊地）理絵（神奈川県），佐藤篤史（富山県），風間裕介（福井県），田中義行（京都府），柴谷（駒井）多恵子（大阪府），氷見英子（兵庫県），岡田聡史（岡山県），伊藤美環子（広島県），遠藤（飛川）みのり，杉田知彦（香川県），風間智彦（福岡県），高橋宙之，田村泰章（鹿児島県）

◇学生会員：手塚拓海（静岡県），ハク エムダドウル（宮崎県）

逝去

青木俊夫（神奈川県），鶴飼保雄（茨城県）
慎んでご冥福をお祈りいたします。